

# 自然館だより

## 採れたよ 打ち上げ貝 観察会

二月十一日(土)、打ち上げ貝観察会を開催しました。当初、一月二十九日に開催予定でしたが、寒波襲来のため、参加者の都合を考慮して決定しました。当日は十六名の参加者があり、前日の雨もやみ、晴れ間も見える天気で観察日和となりました。

講師は杉村智幸さんです。長年、角島周辺海域に生息する貝の研究をしています。最初の講義では、スライドを使い角島の環境の変化を時系列と地図を使って多面的に解説しました。まず、角



島の現状について、日本海に位置する角島は対馬暖流の流れにより、透明度の高い、そして、水質の非常に良い地域で自然環境が大変豊かであると解説しました。「対馬暖

## 第7号

令和5年3月  
発行  
豊北町自然  
観察指導員会  
〒759-5332  
下関市豊北町  
角島 893-1  
つしま自然館  
083-786-0430  
(兼 Fax)

流は角島から向津具半島、見島沖を経て日本海を北上し、青森県まで達します。大間の黒まぐろは対馬暖流のおかげです。また、高知県沖で多く見られるタカラガイは日本海の角島周辺でも高知程ではないが程度見られます。これも対馬暖流が関係しています。」と話しました。

次に、角島の環境の変化について、自然環境の多様性から解説していただきました。角島を五つの地域に分けて話しました。

### ① 北西部の海岸は、手つかず

の自然が残っている。魚を取って環境をたいてつにしている。

### ② 南東部の海岸は、

波静かで一万年前は、本土と地続きだったのではないか。アマモ、タイラギ等が生息する。

### ③ 無井湾の海岸は、



大潮の時に出現するハイガイが見られる。港としての利便性が悪い分、環境面では、重要な場所となった。

### ④ 沿岸部海底域は、浅い

海域で光が降り注ぎ、ホンダワラ等が見られ生産性が高い場所である。

### ⑤ 沖合海域は、角島周辺

を代表する好漁場になっており、頂上は砂浜になっていいる。事等を解説しました。



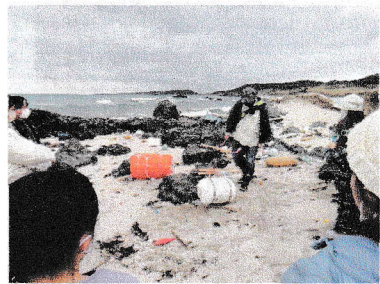
一時間の講義の後、浜に出来ました。浜に通じる道沿いには、スイセンの花が咲き、ほのかに甘い香りも漂っていました。浜では、風はありましたが、心地よい潮風を体全体に感じながら、思い思いの場所を見つけては、貝を探し始めました。

参加者の皆さんは、ユリヤガイやタカラガ

角島の瀬戸のわかめは人のむた  
荒かりしかど我とはにぎめ

詠み人知らず

万葉集 第16巻(3871)



イを探しながら大浜海岸を東方向に進んで行きました。波打ち際に並んでいる海藻等を目印に探して行く、いろいろな貝を見つけ、ユリヤガイをたくさん見つけた子や珍しい貴重な貝を見つけた人など多くの収穫がありました。



コバルトビーチ付近の砂浜で、大きな円柱形の漂着物を取り上げて、最近、外国の物とみられる漂着物を特に多く見られるようになったと話しました。

た。先生は、角島の環境を今後も見つめていきたいと話しました。昼食後は、自然館所蔵の貝や講師著書のガイドⅢ本を参考にしながら採集した貝を同定していきました。

参加者から、いろいろな貝を見つけて楽しかったよ、という声がありました。

## 初めての見島 船旅

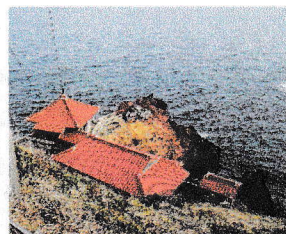


昨秋、十一月二十一〜二十二日、職員研修で五名が萩市沖の見島に行きました。渡海船「ゆりや」にて、片道約七十分程です。当日は、波も風いいてとても快適な船旅でした。

見島は、山口県の最北端に位置し、萩市沖約四十五キロメートルの日本海に浮かぶ周囲十八キロメートル、面積七・八平キロメートルの島です。一日目、ダムを見ました。見島ダムは、見島唯一の河川でその川沿いには八町八反と呼ばれる広大な農地、または、飲料水に利用されています。次に「ジーコンボ古墳群」は、爺



をジーコー、婆をバーコーと呼んでいた事から「祖先の墓」の呼び名が普遍化したものと思われる。七世紀後半以降に、海岸の大きな石を積み上げて造られた円形の積石塚です。この古墳群に葬られた人々の実態はまだ十分に解明されていません。出土遺物の装飾品や武器類から、官人



を頂点とした軍事的機能を備えた集団であったと考えられます。墳墓の構造や変遷のみならず、当時の対外関係、辺境防備や軍事集団の実態を調べるうえで、極めて重要な遺跡です。宇津観音堂は、全国で3ヶ所あるといわれる観音像が祭られています。海岸上に建立されているため、長い石段を下って参詣しなければならず、全国でも珍しい「下り観音」と言われています。昔からそのご利益があるといわれ島民をはじめ全国からのお参りも多い、また見島八景の一つといわれ絶景の場所にあります。



二日目、見島北灯台は、見島の最北端の長尾の鼻に建つ灯台です。海の難所として知られる見島の北側に、船の航行安全のため昭和三十八年に建立されました。ここは「水平線から日が昇り、水平線に日が沈む珍しい場所」とされ、その大パノラマの絶景の美しいところです。私達は、島の人たちとの交流を楽しみました。四名が初めての見島でした。